

うらやす地域福祉活動計画Ⅴ 第1回策定委員会議事要旨

1. 開催日時 令和6年8月6日(火) 15:00~16:30

2. 開催場所 東野地区複合福祉施設 会議室3・4

3. 出席者

(委員)

坪井真委員、笠井和枝委員、大塚真理子委員、小平弓子委員、相原勇二委員、倉光幸司委員、松井隆委員、大場浩委員、川口英樹委員、宇田川道恵委員、和田千鶴子委員、大塚三枝子委員、坪井真委員、榎本俊夫委員、永井通委員、岡部浩委員、有澤佳彦委員、

(事務局)

宇田川会長、小嶋常務理事、大塚事務局長、牧野次長、大西課長、若月課長、樽林課長、浅野センター長、青野センター長、寺師

4. 議題

- (1) 地域福祉活動計画について
 - ①地域福祉活動計画策定の目的・意義
 - ②うらやす地域福祉活動計画Ⅴ策定の方向性
 - ③策定スケジュールについて
- (2) 地域福祉課題についての意見交換
 - ①アンケート実施について
 - ②各委員が感じる地域課題

5. 議事の概要

- (1) 地域福祉活動計画について
 - ①地域福祉活動計画策定の目的・意義
 - ②うらやす地域福祉活動計画Ⅴ策定の方向性
 - ③策定スケジュールについて
- (2) 地域福祉課題についての意見交換
 - ①アンケート実施について
 - ②各委員が感じる地域課題

地域福祉活動と住民・活動団体・事業所をはじめとする関係機関の取り組みや役割・連携のあり方を検討するとともに、事業の充実・強化を図り意見交換を行った。

6. 会議経過

(1) 地域福祉活動計画について

- ①地域福祉活動計画策定の目的・意義
- ②うらやす地域福祉活動計画V策定の方向性
- ③策定スケジュールについて

計画策定の目的・意義および具体的方向性について、協議いただきたい旨を説明。

〈意見〉

委員長：協議事項（1）地域福祉活動計画①地域福祉活動計画策定の目的・意義②うらやす地域福祉活動計画V策定の方向性③策定スケジュールについて了承いただいた。

(2) 地域福祉課題についての意見交換

- ①アンケート実施について
- ②各委員が感じる地域課題

アンケート内容についてと地域課題について、協議いただきたい旨を説明。

- ①アンケート実施について

〈意見〉

委員長：協議事項（2）地域福祉課題について。

事務局：複数回答ありのものは「複数回答可」など選択できるようにしている。

委員：このアンケートの手法で2つまで選択や、あてはまるものすべて選択など、どのような基準なのか。マーク式や、レ点式にすることも一つの方法である。内容の件で、「自治会や管理組合の人に相談する」とあるが、老人クラブは友愛訪問事業の祝い訪問で、困っている方や、一人で外出できない方たちのところに行き、相談や話し相手になったりするので、ここに老人クラブがないことが残念。問7か問8で、「ボランティア活動をする、しやすくするには何が必要ですか」の質問に、ボランティア活動で怪我をした場合、病院の治療費や入院代は自分で保険をかけなければいけないのか、それとも老人クラブで年間掛け金を払って保険をかけてもらえるのか。ボランティア活動をやりやすくするために、このアンケートの技法、内容と質問についてお聞きしたい。

委員長：①アンケートの選択の条件、②マーク式とチェック式が混在している、③老人クラブの名称が出ていないのはなぜか、④それに関連してボランティア活動をしやすくするために、どのようなことが必要なのか、⑤ボランティア活動の保険加入に関する質問。

事務局：①について、選択肢の数が多いほどすべて選択可という仮設定をしている。②について、マークシート方式とレ点方式に関しては、Google フォームの設定で、一つだ

け選択の場合マーク式になってしまい、多数・複数選択できる質問になるとレ点方式になってしまうため、設定上の問題である。③の老人クラブが入っていないことについては、もう一度選択肢の中に老人クラブを検討をする。④は、問8のボランティア活動について、保険の加入も含め安心して活動できるよう選択肢のところで設定を検討。

委員：9月16日までにアンケートを取る計画になっているが、9月8日に行われるカラオケ交流会に多くの非会員の方が来場することを期待して、そこでアンケートの実施をしたいと思う。8月の役員会議で承認を得られれば、是非計画を見直していただきたい。

委員長：Google フォームのマークとチェックについては、Google フォームはそれでよいが、アンケート用紙と統一した方がよい。

委員：アンケートの対象者は成人を想定しているのか、ボランティア活動には学生の声も拾いたいと思う。設問が地域福祉活動をする側の視点が多いと感じたが、される側がどのような支援を求めているのか気になった。

委員長：①比較的若い年代の方たちを対象にするのか。広報手段には若い年代の方がどれくらい該当するのか。②支援を必要とする人たちを対象としたアンケート調査を行うのか。

事務局：若いボランティアの声を拾う点について、社協主催の事業では若いお母さんの意見が聞けると思った。また、委員会内でもどのように声を聞くかを検討したい。支援を受ける側の意見については、今回のアンケートは主に支える側の活動しやすさに焦点を当てているため、支えられる側の意見を集めるのは現実的に難しい。これについては他の委員の意見をいただき、今後の方針を考えたい。

委員長：例えば、社会福祉協議会が調査をするだけではなく、行政の既存の調査結果があるため、それを含めて活用しながら検討いただければと思う。

②各委員が感じる地域課題について

〈意見〉

委員長：②各委員が感じる地域課題について。本日第1回目ということで、委員ひとりひとりから今の段階の意見を伺いたい。

委員：老人クラブと婦人の会は、高齢化が進んでいる。今年度より孤独・孤立対策推進法が施行されたが、地域に孤独と孤立で悩んでいる方が本当に多い。浦安市婦人の会連合会も、子どもたちの教育の援助や女性についてなど、地域の中に溶け込んで、勉強していきたい。

委員：浦安市ボランティア連絡協議会の一番の悩みは、会員の高齢化である。新しく入った方はボランティア体験講座を受け、毎年何人かと活動しているが、元々の会員は高齢化で足が運べない現状である。若いボランティア意識については、人が困っていれば助けたいという気持ちを持つ人が多ければ、特にボランティアを立ち上げなくても良いのではないかと思う。例えば、道路にゴミが落ちていれば拾うことは、子どもたちと一緒にできることであり、小さなことを続ければ、みんなのできるようになると思う。

委員：現在、老人クラブは48の会員クラブがあり、シニア浦安連合会として社会貢献活動を進めているが、役員や会長の意識によって温度差がある。積極的に「生活お助け隊」を立ち上げているクラブもあれば、趣味だけを重視する会長のクラブもあり、この差が課題である。全国の老人クラブの活動理念は「のばそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」だが、浦安市では「貢献寿命」も伸ばすべきだと役員会で提案し、活動理念に加えた。社会貢献に関心を持たない会長をいかに関心を持たせ、積極的に活動してもらうかが、今最も苦勞している点である。

委員：浦安市身体障害者福祉会は、昨年末からコロナが落ち着いたため、バスハイクを企画し、近場へ出かけた。次回のバスハイクも、コロナ対策を整えた上で実施する予定である。ボランティアや障がい者団体は高齢化が進み、会員数は以前の100人から現在は30人に減少した。20名以上でないと成立しないため、他団体とコラボして参加を募りたいと考えている。

委員：社会福祉協議会海浜2支部の活動はイベント中心の地域支援が主だが、一人ひとりを支える活動は個人情報への壁があり、進んでいないのが現状。推進委員の活動、災害ボランティアについては認識があるものの、生活支援に対する認識は少ないと感じている。この点を取り組んでいきたい。また、福祉DXの推進が急務で、情報が電子化される中で、住民がアクセスしやすいよう教育し、巻き込んでいくことが重要。

委員：浦安市介護事業者協議会は介護保険サービスを進めているが、小規模から大規模な事業所まで、人手不足などで個別に動くのが難しい時代になっている。ただ、介護事業者は福祉の思いが強い方が多く、介護保険のルールに追われ、自分たちのやっていることに悩むことが多い。浦安市全体でこうした問題を認識し、やりたいことが見える形で伝われば、事業所の人たちもさらに頑張ろうと思うだろう。浦安市と事業所が連携すれば、住み慣れた地域で長く暮らせると感じた。

委員：浦安市ひとり親家庭福祉会、昔は未亡人会、今現在はひまわり会として活動している。高齢化が進み、会員は減少した。いつまで続けられるかという状況にあるが、これまでの行事はできる限り実施している。老人クラブは会費から保険を全員分適用している。また、一人暮らしの高齢者への支援は、市からのアンケートで体調や買

い物について市が把握していると思っているため、私たちが家庭に入り込むのは難しい。個人的には親戚や知り合いと連携しないと、家庭内に介入することは困難で、今後の課題となるだろう。

委員：千葉県社会福祉士会では、ひきこもりの方や子どもからお年寄りまで年齢を問わない総合相談という業務をしており、いろいろな福祉制度は整ってきているが、制度だけでは人の生活全般はカバーできず、孤立感や孤独感というところは地域との方がつながっていかないと解消されない問題だというように感じた。孤独・孤立という問題は非常に大きいと思っているため、単身世帯の方も気軽に、この地域福祉活動に参加し、助けられ、両方できるような仕組みができていけばよいと思っている。

委員：赤十字は、救命が最も重要であり、家庭内で倒れて意識を失った場合、胸骨圧迫を行うことが勧められている。救急車が来るまで約8分かかるが、その間にできることが社会復帰に役立つ。毎年4月初めに自治会の会議で救急法の出前講座をお願いしており、昨年度は一つの自治会で救急法と幼児安全法を実施した。しかし、参加者は少なく、今年も班長会議後に午前と午後で研修を行い、約30名が参加した。これを10年続ければ、救命で誰かが助かるだろうと自治会長から言葉をいただいた。

委員：浦安市保護司連絡協議会。一時期、浦安市では少年の荒れた時期があり、最近では落ち着いていたが、再び少年犯罪が増加している。窃盗、無免許運転、恐喝などの防止策について悩んでいる。保護観察を受けている対象者との面接は1対1では事件を起こす恐れがあるため、場所の確保をお願いしている。現在、少しずつ社協や市も協力してくれるようになってきた。罪を犯した人をどう更生させ、再犯を防ぐかを考えているが、地域の手も必要だと思う。しかし、「刑務所から出たばかりだから助けてやってくれ」とは言いづらく、悩んでいる。

委員：自治会連合会には80以上の自治会が加盟しているが、各自治会には温度差があると感じている。例えば、会員数がほぼ100%の自治会もあれば、8,000世帯以上あっても、1,060軒しか加入していないところもある。この温度差の中で、社会福祉活動や支援に応える力が自治会には徐々に不足してきている。自主防災組織を自治会が中心になって運営しようとしても、昼間は多くの方が東京に働きに行っているため、昼間の対応が難しい。避難所運営などで、老人クラブや子どもを持つ親の意見を聞きながら取り組んでいるが、やはり温度差を感じる。

委員：浦安商工会議所は、会員企業2,000社で成り立っており、そのうち1,300社が浦安市内にある。最も大きな企業はオリエンタルランド社（ディズニーランド）で、商工会議所は「豊かな住みやすい街づくり」を目指している。しかし、商売繁盛を優先しているため、福祉活動には視点が薄いと反省している。地域福祉活動計画について、浦安市では生産年齢人口が現在ピークに達しており、今後急速に減少すると見てい

る。人口規模もほぼ横ばいだが、10年後には高齢化が進んだ町になると予測される。この課題に対応するため、昨年末に浦安市に対して要望書を提出した。浦安市は新たな土地開発が難しく、まちづくりを見直す必要があると考えている。これまで浦安市は住環境を重視してきたが、今後は若い世代が住みやすい場所として土地や家の見直しが重要だと提案した。若い世代が浦安市に留まり、企業が他市に流れないようなまちづくりを進めることが、地域の活性化と繋がりを生むと信じている。商工会議所は「地域の元気と未来」を掲げ、今後も地域と共に歩んでいきたいと考えている。

委員：社会福祉課は生活保護を担当している部署として、最近、生活に困窮する方が増えている印象がある。実際、生活保護受給世帯は増加しており、特に仕事につけない方が多い。背景には精神障がいや軽度の知的障がいを持つ方が増えているのではないかとすることがあり、犯罪者の中にもその傾向が見られる。また、貧困問題では非正規雇用の増加や、子どものヤングケアラー問題、高校中退後の支援の手薄さも課題となっている。高校中退後に長期間引きこもるパターンもあり、早期支援が求められる。地域では高齢者世帯の中に50歳以上の子どもがいる場合も多く、その世代の支援も重要な課題となっている。支え手が不足し、支えを必要とする人が増えている現状が深刻である。

副委員長：民生委員は3年に1回改選があり、来年12月にその時期が来る。基本的に75歳を過ぎると定年となり、延長は可能だが、多くの方が75歳は適切な年齢と考えている。民生委員は大切な役目を担うが、本人や家族の健康があつてこそその活動であり、無理をさせるべきではない。定数を維持したいが、なり手がいないのが現状だ。もし適任者がいれば、ぜひ近くの民生委員に紹介してほしい。また、地域の大人としての責任として、ゴミ拾いや挨拶などの基本的な行動がなぜ今、問われるのかは悲しいことである。もしそれが現実であれば、私たち大人が小さなことから実践し、手本を示していける浦安市を目指していきたいと思う。

委員長：うらやす地域福祉活動計画V第1回策定委員会の協議事項をすべて終了。

6 その他

事務局：本日大変多くいただいた意見を参考にさせていただき、アンケートについては、一部修正した形で実施していきたいと思う。アンケートの結果の方を参考にし、次回骨子案を設定していきたいと考えている。

以上